

竜王南小学校 学校関係者評価書

令和6年2月19日(月)

甲斐市立竜王南小学校 学校関係者評価委員会作成

第1回 学校関係者評価委員会

実施日：令和6年2月13日(火)午後3時30分～4時30分

会場：竜王南小学校会議室

参加者：(学校関係者評価委員) 4名出席 3名欠席

学校評議員 鶴田 重雄 米山 壽浩 保坂 秀人

P T A会長 清水 静香

学校側 校長 長谷川佳代 教頭 長田 健一

教務主任 金丸 恭子 生徒指導担当 佐野美紀子

I 学校側から提案された内容

- (1) 教職員の自己評価及び改善策
- (2) 児童・保護者アンケート結果

II 協議された主な内容

- (1) 自己評価(教職員・児童・保護者)の結果から
- (2) その他

<学校関係者評価書>

I 全体評価

- 自己評価の結果は、全39問中、全設問で肯定的評価が85%以上となったことから高い水準にあるといえる。
 - ・「ICTの効果的な活用」で否定的評価3.8%となり昨年度の16%から減となった。A B評価は90%と高くなり、ICTの「効果的な活用」に教師の意識改革や資質向上が見られる結果となった。
- ◇「ICTの活用について、学年ごとに習熟させていく基準があるか。」との質問に、甲斐市教育委員会で提供するアプリ等を使用することや、市内各校のICT教育推進委員による情報の共有により活用を模索していること、各学年に応じたタブレットの活用方法を進めていると説明した。
- 児童アンケートの結果では、学習状況で肯定的な結果が見られる成果と、他の設問で心配な面が見られる課題点を挙げた。
 - ・「朝ご飯を食べて登校しているか」の否定的評価が6.2%となり、昨年度の11.3%となり、朝食を食べてくる児童については増加している。反面、6.2%(18人)がいるのは事実で、それらの児童への手立てを考えていく。
 - ・「夢や希望を持っているか」の否定的評価が10.3%となり、昨年13.9%からやや減少し、改善傾向にある。
- ◇朝ご飯を食べていない児童が一定数いることについて、食べられない状況にあるのか、朝起きられずに食べない習慣になってしまっているのかなど、朝食を食べてこない原因はどこにあるのか探りたい。
- ◇「危機管理マニュアルの周知徹底についてどのようにされているか」との問いに、年度始めの職員会議や避難訓練を行う事前指導の際に趣周知徹底を図っていると回答した。
- ◇「学校が避難所となったときのマニュアルはあるのか」の問いに、避難所開設マニュアルがあることと、市主催の合同の避難所開設研修会に参加し、万が一に備える準備をしていることを回答した。
- ◇災害が起きたときには、実際は学校や地域が連携して避難所を開設していかなければならないと、貴重なご意見をいただいた。
- 保護者アンケートの結果では、「わからない」と回答する割合が一定数ある。

Ⅱ 特 徴

- 昨年度の児童アンケート結果と比較すると、特に学習面で肯定的回答が増えている。その中でも、ここ数年の課題となっていた家庭学習時間と授業改善については、課題解決の取組の成果が肯定的評価の上昇としてアンケート結果に表れた。要因としては、校内研究を中心とした授業改善と学級担任の学級経営の充実が、授業者と児童の信頼関係を深め、授業への意欲の高まりとなって表れたためととらえる。
- ・「学校の授業は楽しいか。」の肯定的評価が 95.3%となり、昨年度の 93.2%より上回った。
- ・「先生はよく勉強を教えてくれるか。」の肯定的評価が 99.3%となった。
- ・「国語の授業内容はわかるか。」の肯定的評価が 96.6%、「算数の授業内容はわかるか。」の肯定的評価が 94.6%となった。
- ・「学年の目標時間の勉強をしているか。」は、A 51.0%（昨年 45.1%）、B 37.4%（昨年 43.1%）、C 8.5%（昨年 8.5%）、D 3.1%（昨年 3.4%）と、目標時間勉強ができる児童の割合が増えている。
- ・「朝ご飯を食べて登校していますか。」は昨年度の摂取率が 88.6%だったところ、今年度は 93.8%と上昇した。各学年で食育の授業を行うなど課題解決の手立てが有効であった。
- ◇本校の児童は素直で伸び伸び育っていることがよくわかる。また、あいさつをしてくれる状況からも、学校生活が充実していることを感じる。
- ◇全体的な評価として、先生方が一生懸命取り組んでいることがわかる。地域でもできることがあったら気兼ねなく相談してほしい。

Ⅲ 今後の課題として意識されたいこと

- ・児童アンケート結果「夢や希望を持っているか」の否定的評価回答児童が 1 割近くいることを重視し、キャリア教育を核として教育活動全般において課題の解決に向かって取り組んでいく。児童が主体的に自分の生き方を考えていけるよう、家庭とも連携していく必要がある。
- ・学校現場においても、急速に変化していく I C T 環境に対応していくために、今後も教職員全体で研修に励む。
- ・災害時において学校が避難所となる場合、行政だけに頼るのではなく、学校と地域が連携して避難所の開設に協力していくことも必要である。
- ・朝食の摂取率は上がっているが、100%を目指して取り組んでいきたい。

※特記事項

特になし

記載責任者 竜王南学校 学校関係者評価委員 氏名：清水 静香

